

編集後記：先日、とても天気予報が気になることがありました。それは日本の陸地では46年ぶりとなった皆既日食（7月22日）です。皆既日食が観測できるのは鹿児島県トカラ列島や奄美大島ですが、晴れ間ができれば日本各地で部分日食が見られるとのことで、楽しみにしていました。前日の天気予報によると私の住んでいる南関東は午前中は雨で午後は曇り、日食が始まって終わるのはお昼前後、80%に近い確率で的中している現在の天気予報（雨の予報）ですが、予報がはずれて欲しいなあと思っていたのですが…。予報通り、午前中はしっかり雨が降り、日食の終わる頃に雨がやみました。薄日を見ながら少し欠けてる気がするなあというぐらいで残念ながらはっきりと見ることはできませんでした。

学生さんに天気予報（雨の予報）の的中率の話をするとう「そんなに高い？」とびっくりしています。はずれた時の印象が残ることが多く、その確率の高さに

驚くのかもかもしれませんね。ただ、夏に多い、局地的な大雨の予測は難しい場合もあるようで、この夏も中国、九州地方で豪雨による土砂崩れなどの災害などが起こっています。大雨が予測されていても情報の入手や避難が遅れることで被害が起こることもあります。

6月号編集後記で田口さんが国土交通省交通政策審議会気象分科会の提言（案）を紹介して下さっています。提言（案）から、局地的な大雨からの被害を少なくするためには、まずひとり一人が気をつけることが大切だと感じました。私は学生さんに講義をさせてもらっていますが、その講義では学生さんひとり一人に注意してもらえるよう、日本大気電気学会から出版されている本を参考にしながら『雷から身を守るには』という項目をもうけてクイズ形式で身を守る方法を紹介しています。今後は、局地的な大雨（マスコミ的というと『ゲリラ豪雨』）から身を守る方法も紹介していければと思います。（新村典子）